

平成 30 年度

市 政 概 要

鹿児島市議会事務局

都市像

少子高齢化が進行し、人口減少局面へ移行する中において、本市がその特性を最大限に生かしながら、将来に向けて持続可能な発展を遂げていくためには、今後のまちづくりにおいて、量的拡大志向から質的充実志向への転換を、一層本格的なものとしていかななくてはなりません。

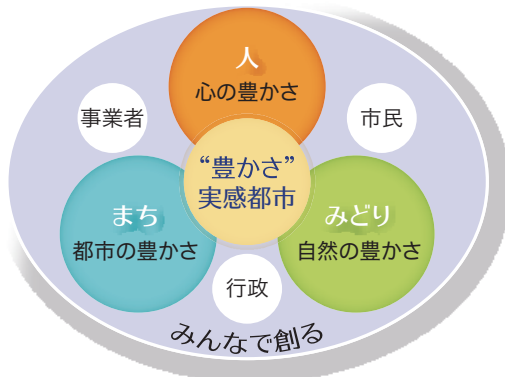
私たちは、そのことを基本とし、市民一人ひとりの鹿児島に寄せる愛情と未来へかける熱い思いや行動力を結集し、南九州の中核都市にふさわしい多様な都市機能の集積と、桜島や錦江湾などの自然が共存する、真に豊かさを実感できるまちを創造するため、次の都市像を掲げます。

人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま

私たちの目指すまちでは、水と緑が輝く多彩な自然と、快適で機能性の高い都市環境が調和しており、地域固有の魅力が多くの人々を惹きつけ、まちににぎわいと活力を生み出しています。

私たち市民は、人と人がつながる温もりに満ちた地域社会において、生きる喜びを感じながら健やかな生活を営んでいます。そこでは、先人達が築いた歴史や文化への愛着と誇りが醸成され、次代を担う人材が育まれています。

そして、まち全体には、市民みんなで自分たちのまちを創り、未来へ引き継いでいこうという想いがあふれています。



都市像に掲げる“豊かさ”



人

少子高齢化や人口減少の進行、コミュニティ機能の低下が懸念される中において、人と人、人と地域のつながりを支えるとともに、郷土の歴史や文化に根ざした愛着や誇りを育むことにより、温もりに満ちた地域社会で、健やかに生きる喜びを感じられる**心の豊かさ**を実現します。



まち

グローバルな交流の進展や九州新幹線全線開業などにより地域間競争が激化する中において、東アジアに近接する陸・海・空の交通結節点としての優位性を生かすとともに、本市独自の魅力ある地域資源を磨きあげ、新規・成長分野に積極果敢に挑むことにより、快適で機能性の高い、にぎわいと活力に満ちた**都市の豊かさ**を実現します。



みどり

地球レベルでの環境問題が深刻さを増す中において、豊かな自然と多様な都市機能の調和を図りながら持続可能なまちづくりを進めるとともに、美しい自然環境を次の世代へつなぐことにより、将来にわたって水と緑が輝く多彩な**自然の豊かさ**を実現します。



みんなで創る

市民ニーズが多様化する一方で地域社会の担い手不足が危惧される中において、市民、事業者、行政をはじめ町内会等の地域団体やNPO・ボランティアなど鹿児島を愛するあらゆる主体の情熱、英知と行動力を結集し、“わがまち鹿児島”づくりをともに進めることにより、満足度の高い**“豊かさ”実感都市**を実現します。

鹿児島市平和都市宣言

わたくしたちの郷土鹿児島市は、先の大戦により市街地のほとんどを焼失し、多くの尊い人命と財産を失った。

鹿児島市は、その焦土の中から立ち上がり市民の英知とたゆまぬ努力によって、今日、南九州の中核都市として限らない発展を続けている。

わたくしたちは、この平和で豊かな郷土を次の世代に引き継ぐために、再び戦争による惨禍を繰り返さないことを誓い、あらゆる国の核兵器の全面廃絶と国是である非核三原則の遵守を希求し、世界の恒久平和の達成を願い、ここに「平和都市」を宣言する。

平成2年2月26日

鹿児島市

鹿児島市ふれあい長寿社会宣言

親から子へ、子から孫へ、家族から隣人へ、そしてまちへと広がって
いくふれあいの輪。

そこには、暮らしの中に生きる豊かな心があります。

わたくしたちは、励ましあい、助けあい、この輪を大きく広げ、ぬく
もりに満ちた長寿社会を築いていきます。

さんさんと輝く南の太陽のもと、健やかな心と体をつくります。生き
生きとした日々を送るために。

自らの能力をさらに高め、社会に役立てます。生きがいに満ちた人生
のために。

高齢者を敬い、豊かな経験と知恵に学びます。いまと未来へ生かすた
めに。

家族のきずなを大切にし、明るい家庭をつくります。心が通うやすら
ぎの場にするために。

世代を超えてふれあい、共に生きる喜びを分かちあいます。思いやり
に満ちた社会にするために。

平成6年9月15日

鹿児島市

鹿児島市中核市移行宣言

鹿児島市は、明治22年4月1日に市制を施行し、以来、市民の英知とたゆまぬ努力により、幾多の困難と試練を克服し、いまや、人口54万有
余を擁する南九州の中核都市として発展を続けている。

鹿児島市は、誕生して108年目を迎える今、全国で最初の中核市として、未来に向かって新たな第一歩を踏み出す。

私どもは、中核市の役割と責務を自覚し、市民サービスの向上と、個性豊かで魅力あふれるまちづくりを一層積極的に進め、日本の南の拠点都市としてのさらなる飛躍と発展を目指すものである。

ここに、中核市への移行を力強く宣言する。

平成8年4月1日

鹿児島市長 赤崎 義則

男女共同参画都市かごしま宣言

樟薫り花々の匂う美しいまち“かごしま”。煙立つ火の島に熱き思いを寄せて、このまちの永遠にわたる豊かさを願う私たちは、男女がともに参画し個性を生かしあう恒久の理念を掲げて、ここに「男女共同参画都市かごしま」となることを宣言します。

- 1 男女がお互いにその人権を尊重しあい、人間らしく、自分らしく生きることができる社会をめざします。
- 1 性別による固定的役割分担意識を改め、男女に不均衡な制度・慣行を見直し、ジェンダー・フリーな社会をめざします。
- 1 一人ひとりがその能力を十分に発揮し、自らの意思と行動により、あらゆる分野に男女が対等に参画できる社会をめざします。
- 1 男女が共に自立し、より豊かなパートナーシップを紡ぎ出すことにより、家庭生活と社会的活動を支え合う社会をめざします。
- 1 国際社会の一員として、相互の理解と協力をもって、世界の平等・開発・平和をめざします。

平成13年1月30日

鹿 児 島 市

※この宣言において、「ジェンダー・フリー」は「性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができる」という意味で使用している。

かごしま環境都市宣言

私たちのまち“かごしま”は、桜島、錦江湾、甲突川など、豊かな自然と調和した、世界に誇れる美しいまちです。

私たちは、この恵まれた自然の中で、先人が育んできた歴史や文化を大事に受け継ぎながら、暮らしています。

その一方で、今日の便利で快適な生活は、私たちの愛してやまない“かごしま”に、そして、かけがえのない地球に、深刻な影響を与えています。

いまこそ私たちは、地球と共に生きていることを深く認識し、この大切な地球の環境を、郷土“かごしま”の環境を、私たち自身で守り、より良いものにしていかなければなりません。そして、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

ここに、すべての市民は、共に力を合わせて、環境にやさしい持続可能なまち“かごしま”を築いていくことを宣言します。

平成20年10月10日

鹿 児 島 市

鹿 児 島 市 民 憲 章

(昭和42年 4月29日制定)

わが鹿児島は、多くのかがやかしい歴史と、南国の美しい自然とで、すべての人々に親しまれています。

わたしたちは、つねに教養をたかめ、広い視野にたつてこのめぐまれた郷土を、一層すぐれた近代都市として発展させなければなりません。これが、わたしたちの理想であり、また大きな喜びであります。

わたしたちは、この使命をなすとげるために、ここに市民憲章を定め、こぞつて、つぎのことがらを守り、力強く前進していきたいと思ひます。

1. わたしたち 鹿児島市民は

みんな 力をあわせて

美しい町をつくりましょう。

1. わたしたち 鹿児島市民は

みんな よく働いて

豊かな町をきずきましょう。

1. わたしたち 鹿児島市民は

みんな きまりを守つて

明るい町にいたしましょう。

1. わたしたち 鹿児島市民は

みんな 助け合つて

子供たちの幸福を守りましょう。

1. わたしたち 鹿児島市民は

みんな あたたかい心で

旅行者をむかえましょう。



市 旗

(昭和46年9月1日制定)

(構 成…市旗の構成は、白色の地に黒色の市紋章
(昭和42年鹿児島市告示第5号)と赤色
の桜島の図形を配する。
規 格…縦2、横3の比率とする。)



市 花 きょうちくとう

(昭和43年11月1日制定)



市 木 くすのき

(昭和43年11月1日制定)

鹿 児 島 市 民 歌

原 詞 高 城 俊 男
 補 詞 鹿 児 島 市 民 歌 制 定 委 員 会
 作 曲 中 田 喜 直

昭和47年6月15日 制定

♩ = 108位

明るく、力強く、そして美しく

みきし なんろ みこや のうま そわに らんた にいち あしあ おおた ぞみら らちし にてい
 きよわか うかぜ もいの ひいゆ をぶく ふきえ くのを さひみ ぐがつ らのめ じぼよ まるう ああ
 ああふ ふふふ るるる さささ ととと ははは ふふふ るるる さささ ととと ははは
 いはゆ きなめ るとが ろみら うらら こりい びのへ うかひ たおら ままま ちちち かかか ししし ままま かかか ししし ままま
 ゆみあ たどし かりた なのの かかか ししし ままま ししし ままま かかか ししし ままま

一、みなみの空に 青空に

きょうも火をふく 桜島
 ああふるさとは ふるさとは
 生きるよろこび 歌うまち

鹿児島 鹿児島

ゆたかな 鹿児島
 ゆたかな 鹿児島

二、錦江湾に 潮みちて

わかい息吹の 陽がのぼる
 ああふるさとは ふるさとは
 花とみどりの かおるまち

鹿児島 鹿児島

みどりの 鹿児島
 みどりの 鹿児島

三、城山に立ち あたらしい

風のゆくえを みつめよう
 ああふるさとは ふるさとは
 夢が未来へ ひらくまち

鹿児島 鹿児島

あしたの 鹿児島
 あしたの 鹿児島

姉妹友好都市等との交流

鹿児島市は、外国の都市との教育・文化・経済などの交流を通じ、友好親善や世界の平和と繁栄に貢献するため、イタリアのナポリ市、オーストラリアのパース市、アメリカのマイアミ市と姉妹都市盟約を、また中国の長沙市とは友好都市を締結しています。

また、国内では、山形県の鶴岡市と兄弟都市の盟約を結び、交流を深めています。

※詳しくはP69・70を参照



• 姉妹都市

ナポリ市（イタリア）
昭和35年5月3日盟約



• 姉妹都市

パース市（オーストラリア）
昭和49年4月23日盟約



• 友好都市

長沙市（中国）

昭和57年10月30日締結



• 姉妹都市

マイアミ市（アメリカ）

平成2年11月1日盟約



• 兄弟都市

鶴岡市（山形県）

昭和44年11月7日盟約



大宝館

總	說			
議	會			
企	画			
財	務			
總	務			
市	民			
危	機	管	理	
環	境			
福	祉	・	保	健
產	業			
觀	光	交	流	
建	設			
消	防			
文	教			
病	院	事	業	
交	通	事	業	
水道事業・公共下水道事業等				
船	舶	事	業	
各	種	団	体	
付	録			

1	1
2	15
3	29
4	53
5	69
6	93
7	117
8	129
9	149
10	239
11	269
12	285
13	319
14	325
15	379
16	387
17	399
18	419
19	425
20	435

— 目 次 —

総 説	1.	生 活 意 識 的 地 域	1
	2.	位 置 及 び 地 勢	3
	3.	気 候 及 び 家 族	3
	4.	市 域 の う つ り か わ	4
	5.	人 口 変 動	5
	6.	市 庁 舎	7
	7.	市 史 ・ 市 旗 ・ 市 民 歌 等	9
議 会	1.	議 会 構 成	15
	2.	議 会 開 催 及 び 議 案 等 審 議 状 況	21
	3.	報 酬 及 び 費 用 弁 償 等	22
	4.	各 種 審 議 会 等 委 員 一 覧 表	24
	5.	市 議 長 , 副 市 議 長	25
	6.	市 議 会 の 選 挙 ・ 同 意	25
	7.	議 会 事 務 局	27
企 画	1.	第 五 次 鹿 児 島 市 総 合 計 画	29
	2.	平 成 30 年 度 の 主 要 事 業	33
	3.	市 町 村 合 併 空	43
	4.	鉄 道 ・ 航 空	44
	5.	公 共 交 通 (バ ス 交 通) の 維 持 ・ 確 保 対 策	50
財 務	1.	予 算 資 料	53
	2.	市 債 債 料	58
	3.	決 算 資 財	59
	4.	市 有 財 産	60
	5.	市 税	62
総 務	1.	姉 妹 ・ 友 好 都 市 , 兄 弟 都 市	69
	2.	広 報	71
	3.	機 構 函	75
	4.	職 員 数	77
	5.	給 与 費	81
	6.	旅 費	85
	7.	職 員 研 修	85
	8.	情 報 シ ス テ ム	87
	9.	東 京 事 務 所	91
	10.	各 種 行 政 委 員 会 (選 管 ・ 監 査 ・ 公 平 ・ 農 業 委)	91
市 民	1.	広 聴	93
	2.	コ ミ ュ ニ テ ィ 推 進	95
	3.	市 民 協 働	97
	4.	男 女 共 同 参 画	99
	5.	消 費 者 行 政	101
	6.	文 化 振 興	102
	7.	国 民 年 金	107
	8.	国 民 健 康 保 険	108
	9.	市 民 サ ー ビ ス ス テ ー シ ョ ン	113
	10.	コ ン ビ ニ 交 付 に よ る 証 明 発 行	114
	11.	ワ ン ス ト ッ プ 窓 口 サ ー ビ ス の 実 施	114
	12.	マイ ナ ン バ ー カ ー ド (個 人 番 号 カ ー ド) の 交 付	114
	13.	人 権 啓 発	115

危機管理	1.	安	心	安	全	117		
	2.	防	・	機	理	122		
	3.	桜	災	危	管	124		
		島	火	山	策			
環境	1.	環	境	保	全	129		
	2.	環	境	衛	生	138		
	3.	清			掃	141		
福祉・保健	1.	健	康	づ	く	り	150	
	2.	地	域			社	153	
	3.	介	護		福	保	162	
	4.	高	齡	者	福	福	167	
	5.	障	害	者	福	福	180	
	6.	児	童	母	子	福	198	
	7.	結	・		支	保	224	
	8.	生	婚		保	護	226	
	9.	生	活	困	者	自	立	227
	10.	保	健		衛	支	援	228
産業	1.	商	工	概	況	239		
	2.	融	資	制	度	251		
	3.	計	量	検	査	所	254	
	4.	農	林	水	産	業	255	
	5.	中	央	卸	売	市	場	262
観光交流	1.	観	光	の	動	向	269	
	2.	観	施	策	の	概	270	
	3.	観	施	設	等	の	271	
	4.	主	な	な	取	組	281	
	5.	主	な	イ	ベ	ン	ト	281
建設	1.	公				園	285	
	2.	緑				業	287	
	3.	都	市	化	計	画	概	289
	4.	港				況	291	
	5.	都		市		湾	293	
	6.	住		居		景	294	
	7.	開	発	許	可	表	示	295
	8.	市	街	地	再	事	務	295
	9.	本	市	施	行	の	土	299
	10.	清				地	区	299
	11.	連	統	立	体	交	差	304
	12.	建	築	確	認	事	業	305
	13.	住				事	務	306
	14.	建	築	物	の	維	持	307
	15.	建	築	物	の	環	境	309
	16.	土				保	全	310
	17.	高				策	木	310
	18.	地		速		路	査	316
			籍		道		316	
					調		317	
消 防	1.	消		防	力	319		
	2.	活			状	320		
	3.	防	動		対	321		
	4.	消	災			321		
	5.	職	員	・	防	員	の	323
					処	遇	323	

文 教	1.	鹿 児 島 市 教 育 振 興 基 本 計 画	325
	2.	学 校 の 現 況	326
	3.	学 校 教 育	333
	4.	保 健 教 育	340
	5.	学 校 給 食	340
	6.	学 校 施 設	342
	7.	社 会 教 育	345
	8.	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ ー シ ョ ン	348
	9.	文 化 財 の 保 護 ・ 活 用	353
	10.	文 化 財 の 教 育 施 設	353
	11.	世 界 文 化 遺 産 関 係	371
	12.	文 化 財	372
病 院 事 業	1.	概 況	379
	2.	経 営 の 基 本	379
	3.	事 業 計 画	382
	4.	事 業 績	382
	5.	財 務	384
交 通 事 業	1.	概 況	387
	2.	経 営 の 基 本	387
	3.	軌 道 事 業	388
	4.	自 動 車 運 送 事 業	389
	5.	自 財 務	393
	6.	市 電 ・ 市 バ ス 路 線 一 覧 表	397
水道事業・公共下水道事業等			
	1.	水 道 事 業 概 況	399
	2.	水 道 業 計 画	399
	3.	上 水 道	399
	4.	財 務 (水 道 事 業)	407
	5.	簡 易 水 道 事 業 等	409
	6.	工 業 用 水 道 事 業 概 況	409
	7.	財 務 (工 業 用 水 道 事 業)	410
	8.	公 共 下 水 道 事 業 概 況	411
	9.	整 備 計 画	412
	10.	公 共 下 水 道	412
	11.	財 務 (公 共 下 水 道 事 業)	416
	12.	地 域 下 水 道	418
船 舶 事 業	1.	概 況	419
	2.	経 営 の 基 本	419
	3.	事 業 績	421
	4.	財 務	422
各 種 団 体	1.	外 郭 団 体 等	425
	2.	鹿 児 島 市 社 会 福 祉 協 議 会	432
	3.	鹿 児 島 市 社 会 事 業 協 会	433
付 録	1.	県 関 係 国 会 議 員 名 簿	435
	2.	県 議 会 議 員 名 簿	436
	3.	地 方 自 治 関 係 団 体 役 員 名 簿	440
	4.	都 市 要	440